

第4学年 道徳科学習指導案

場 所	4年1組教室
児 童	4年1組 36名
指導者	齊藤 峰子

- 1 主題名 よりよいことを大切に (A)
資料名 「いっしょになって、わらっちゃだめだ」(ゆたかな心で「東京書籍」)

2 価値について

中学年の内容項目A-(3)は、「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をする事。」を内容としている。これは低学年の「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の周りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする事。」を受け、高学年の「安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り、節制に心掛けること。」につながっていくものである。

この発達段階においては、これまで以上に自らの行動について考えることができるようになる。そこで、他から言われるのではなく、自ら考えて度を過ぎさない節度のある生活ができるよう、生活面における自立を重視した指導を進めていくことが大切である。

本資料はいじめに関連する内容の資料である。社会の中で、いじめ問題は深刻である。児童一人一人が自分のこととして受け止め、いじめに対して自分にできることは何かをよく考えて行動することが求められる。周りの言動に惑わされ、それに同調してしまう態度がいじめを深刻化させている。してよいことと悪いことをしっかり見極め、自分で考え、自分にできることから始める姿勢が自立した人間になる第一歩であり、いじめ問題に立ち向かうための基本的な資質として必要な態度である。

3 指導にあたって

(1) 児童について

児童は4年生となり、自分の周りを見る目が広がり、社会性も発達してくる段階にある。低学年の親や教師の言葉を大切に行動する時期から、友達との関係性が強くなり、友達と話し合い、協力して活動したり、問題を解決したりしながら生活できるようになってきている。

しかし、まだ自分の生活を客観的に見つめ、自分の行動をコントロールすることができないのが実態である。また、友達関係を重視する時期だけに、周りの言動に左右されやすい面もある。そのため、周りに同調して行動することも多く見られ、たとえ間違っている、それを指摘したり注意したりせずに、同じよう行動してしまう面も見られる。このような実態から、自分でよく考えて行動することの大切さを指導することが必要であると考えられる。

(2) 資料について

本資料「いっしょになって、わらっちゃだめだ」は、いじめに関する資料である。

クラスで一番元気のよいみのる君が、ゆうじ君をからかってクラスのみんなを笑わせている行為を、お父さんにいじめにならないかと指摘された「ぼく」は、みのる君がゆうじ君にしている行為はいけないことと思い始める。みのる君の行為に対して、「ぼく」がしなければならないことがいろいろ思い浮かぶのだが、なかなか実行に移せないでいた。しかし、休み時間、また同様の行為を目にしたとき、「ぼく」は「いっしょになって笑っちゃだめだ。」と心の中で言い続け、思い切って立ち上がり、みんなに同調せずに教室を出て行った。「ぼく」の行動以降、ゆうじ君をからかう声は聞かれなくなったという話である。

ちょっとしたからかいのような行動は、児童によく見られることである。また、周りの友達の行為がよくないと思いながらも、つい同調してしまう心情や、それを見た際に、注意しなければならぬのになかなか実行できない「ぼく」の心情にも共感しやすい。資料中の、教室を無言で出て行った「ぼく」の行為の理由について話し合い、周りに同調することなく、自分でよく考え、自分が正しいと思ったことをすることの大切さについて考え、進んで行動しようとする心情を育てることができる資料であると考えられる。

(3) 指導にあたって

本時は、自分でよく考え、よりよいことを大切に、行動をしようとする心情を育てることをねらいとして、各段階で以下の手立てを講じ、児童が道徳的価値と関わりながら議論することを通して、自己の生き方についての考えを深める授業を展開する。

「きづく」の段階では、本時学習する道徳的価値について、今の自己の姿や感じ方を確かめ、問題意識をもつことができるように、児童が事前に書いたアンケート（自分で考えず、周りに流されてしまったことがあるか）をもとにして考える。自分で考えて行動することが大切であると分かっていても、周りに流されてしまい、行動できないこともあることに気付くことで、考えたい道徳的価値についての問題意識をもつことができるようにする。また、資料を読んだ後、考えたい場面について話し合い、本時学習する道徳的価値と資料とを結びつける活動を行う。

「ふかめる」段階では、主人公「ぼく」の行動や心情について話し合う。初めのうちは、みんなと同じように、みのる君がゆうじ君をからかっている行為を笑って見ている「ぼく」の心情をおさえる。その上で、お父さんの言葉によって、その行為が気になりながらも、次の日の朝も、みのる君たちからかわれているゆうじ君と、みんながそれを見て笑っている様子を見て、何もできずにじっとしている時の「ぼく」の心情について考える。ゆうじ君をかわいそうに思い、何とかしたいと思う一方、みんなの雰囲気にもまれ、何も言い出せずにじっとしている「ぼく」の葛藤している心情をとらえ、周りに流されて、行動できないこともある状況に十分共感できるようにする。その後、休み時間にもゆうじ君がからかわれているのを見るが、今度は思い切って立ち上がり、だまって教室を出て行った「ぼく」の行動の理由について話し合い、「ぼく」が自分でしっかりと考え、自分が正しいと思って行動したことに共感できるようにする。最後に、「ぼく」がとった行動をどう思うか、またその理由について自分の考えを書く活動を行う。一人一人が考えをもった後、全体で議論する場を設定し、価値について話し合う中で、周りがしているからといって、してはいけないと思ったことには同調しないことや、自分の行動は自分で考えて決めることの大切さについて確かめ、価値への理解を深め、道徳的実践意欲につなげていく。

「みつめる」段階では、「きづく」段階でもった問題意識に照らし、学習前の自分と学習後の自分を比べて考えが広がったところや思いが深まったこと、大切にしていきたい考えなどについて、プリントに書きまとめる活動を行い、自分の成長やこれからの行動についての考えが深まったことを自覚できるようにする。その後、記述内容を交流し、教師が価値付けることで、児童が学習した道徳的価値について自分の考えを深めることにつなげていきたい。

授業後は、日常生活などと関連させながら、児童の様子を観察し、よく考えて、よりよい行動をしている児童を評価・称揚し、道徳的実践意欲につなげていきたい。

4 「よりよいことを大切に」指導構想

授業後の観察・評価		
○道徳の時間	○日常指導ほか	
◎わが家のせつすい大作せん（8月） ものを大切にするなど、自分ができることは進んで取り組み、節度ある生活をしようとする態度を育てる。	◎目覚まし時計（1月） 時間を大切にし、規則正しい生活をしようとする態度を育てる。	生活場面で、子どもの様子を観察し、よく考え、よりよい行動をしようとした児童を紹介、称揚する。



自分でよく考え、よりよいことを大切にし、行動しようとする子ども



本時の道徳の時間			
段階	場面	ねらいにせまる手立て	児童の反応
み つ め る	○本時の学習で、自分でよく考えて行動することについて考えたことをプリントに書き、記述内容を交流する。	・自分でよく考えて行動することについての学び合いを踏まえ、自分自身のこれまでのことや学習して考えたこと、これからのことについて考えたことを観点として記述し、内容を交流し、自己の生き方について考えを深めるようにする。	・自分で正しいと思ったことをすることが大切だと改めて思った。 ・今まで、周りに流されてしまったので、これからは自分で正しいと思うことをよく考えて行動したい。
ふ か め る	○資料を通して、価値について話し合う。 ・ゆうじ君に対してからかいの音が続けているのを見て、だまって教室を出て行った「ぼく」の行動について話し合い、主体的に価値について考えたり、友達と議論したりして、自分の考えを広げたり深めたりする。	・プリントに、だまって教室を出て行った「ぼく」の行動についての意見を記述することで、価値について一人一人考えをもつことができるようにする。 ・考えをもとに、全体場で議論を深めるため、話し合いをコーディネートする。 (問い返し、板書、発言の価値付けなど)	・本当は注意したいけど、みんなの前ではできないという気持ちは分かる。 ・みんなと同じように笑うのはだめだから、思い切って教室を出たのはすごいと思う。 ・注意はできないけど、自分ができることをしようと思ったことがいいと思う。
き づ く	○よくないことと分かっているけど、周りに流されて行動してしまったことについて話し合う。	・事前にとっておいたアンケートの結果をもとに、よくないことと分かっているのに周りに流されてしまう実態について話し合い、今の自分の姿や感じ方を確かめ、問題意識につなげていく。	・周りのみんながやっていると、だめなことでもついついやってしまうことがある。 ・よりよく行動するにはどんなことが大事だろう。



A 節度、節制に関わる子どもの実態 ○やってよいこと、悪いことの判断が身に付いてきている。 ○よいことをし、悪いことにブレーキをかけながら生活している。 ●友達の考えに流され、正しい行いができないことがある。 ●友達の悪い行いを見ても、注意できないことがある。	
A 節度、節制についての教師の願い ・自分でよく考え、正しいと思った行いをしながら生活してほしい。	
○関連する学習・行事・特別活動	○これまでの日常指導
○特別活動 「学級目標を決めよう」 よりよい学級にするためにどんな目標を立てたらよいか考える。	○学校行事「運動会」 よりよい活動の仕方を考えて、行動する。
生活場面で、児童の様子を観察し、自分でよく考え行動できた児童を紹介、称揚する。	

5 本時の指導計画

(1) ねらい

自分でよく考え、よりよいことを大切にし、行動をしようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習内容及び学習活動	指導上の留意点・支援	備考
き づ く 10 分	<p>1 価値について話し合う。</p> <p>○自分でよく考えず、周りの人の行動に流されてしまったことについて、アンケートの結果と自分の姿を比べて、考えたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくないことと分かっているけど、周りの人に合わせて行動してしまうことがある。 ・周りの友達に何を言われるか気になって、できないことがある。 ・よりよく行動するために大事なことはどんなことだろう。 <p>2 資料「いっしょになって、わらっちゃだめだ」を読む。</p>	<p>〈「事象」とのつながり〉</p> <p>事前にとったアンケート結果と、これまでの自分の姿を比較して考え、感じたことを交流する場を設定する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>周りの考えや状況に流されて、正しく行動できないことがあることに触れ、自分で考えて行動することについて問題意識をもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えたいところを交流し、資料と道徳的価値についての問題意識をつなげるようにする。 	
ふ か め る 25 分	<p>3 資料について話し合い、価値について考える。</p> <p>(1) みのる君たちにからかわれているゆうじ君に対して何もできないでいる「ぼく」の気持ちについて話し合う。</p> <p>○みのる君たちにからかわれているゆうじ君に対して何もできないでいる「ぼく」は、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だめなのは分かっているけど、みんなが楽しんでいるから注意できない。 ・どうしたらいいのだろう。 ・ゆうじ君がかわいそうだから、思い切ってみる君に注意したい。 <p>(2) 休み時間、ゆうじ君がからかわれているのを見て、思い切って立ち上がり、だまって教室を出て行った「ぼく」の行動の理由を話し合う。</p> <p>○「ぼく」が休み時間、ゆうじ君がからかわれているのを見て、思い切って立ち上がり、だまって教室を出て行ったのはなぜでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」も、前はみんなと同じようにゆうじ君を笑っていた立場であったが、お父さんに指摘されたことで自分の行動が気になってきた状況を確認する。 ・ゆうじ君をかわいそうに思い、何とかしたいと思う一方、みんなの雰囲気にもまれ、何も言い出せないで葛藤している「ぼく」の心情をとらえ、共感できるようにする。 ・みんなが見ている中、注意はできないものの自分に言い聞かせ、思い切って正しいと思った行動をとった「ぼく」の考えに気付くことができるようにする。 	紙板書

<p>ふかめる</p> <p>25分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本当は、注意したかったけど、できないから。 ・いっしょになってゆうじ君をわらってはだめだから、思い切って教室を出ようと考えた。 ・みのる君には注意はできないけど、自分ができることをしようと考えたから。 <p>(3) 「ぼく」のとった行動について話し合う。</p> <p>◎「ぼく」がとった行動をどう思いますか。それはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいと思う。初めは、みんなの目が気になってよいと思うことができなかったけど、最後には一緒になって笑わなかったから。 ・自分で考えてだめなことは、周りの人がしているからといってやっではいけないと思うので、教室を出てよかった。 ・自分の行動は、自分でしっかり考えて決めるべきだと思う。 ・注意できればもっとよかった。 	<p>〈「事象」とのつながり〉</p> <p>「ぼく」がとった行動について考えたことを、道徳プリントに記述する活動を設定する。</p> <p>↓</p> <p>一人一人が自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>〈「友達」とのつながり〉</p> <p>「ぼく」の行動についての考えを全体で議論する中で、児童の考えの根拠等を問い直したり、考えを板書に位置付け、比較・関連付けをしたりしながら、コーディネートする。</p> <p>↓</p> <p>友達と考えを交わす中で、児童が自分の考えを広げたり深めたりして、自分で考えて、よいと思うことを行おうとする道徳的心情を養うようにする。</p>	<p>道徳 プリント</p>
<p>みつめる</p> <p>10分</p>	<p>4 今日の学習について考えたことをプリントに書きまとめ、記述内容を交流する。</p> <p>【振り返りの観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分と比べて感じたこと ・今日の学習で大切だと感じたこと ・これからの自分のこと 	<p>〈「未来」とのつながり〉</p> <p>観点を示し、振り返りを記述する場を設ける。</p> <p>↓</p> <p>学習の初めにもった問題意識に照らして現在の思いを確かめ、友達との関わりを通して、自分の考えがこれまでよりも広がったり深まったりしたことを自覚できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時学習した価値における児童が記述した内容について、学びを深めたことに対し、価値付けをすることで、道徳的実践意欲を養う。 	<p>道徳 プリント</p>